

第45号

大阪市史跡 龍溪神師墓所 雲竜山九島院

発行所

〒550-0022 大阪市西区本田3丁目4番18号
TEL 06(6583)2725 FAX 06(6583)0908

発行者

第二十五世住職 奥田啓知(智證)

岡田阪神タイガース・大阪近鉄バッファローズ日本シリーズ(西大阪線対決) 祈願!

龍 灯

働かない若者急増

働かざる者食うべからざる(労働者)

就職意欲がなく働かない「ニート(NEET=無業者)」と呼ばれる若者が急増しています。平成十五年は六十三万人と十年前の約一・六倍に増加している。そうで、十五歳と三十四歳の人口の約2%にのぼるということです。

ニートとは「Not in employment or Training」の略語で、英国の労働政策の中から生まれた言葉だそうです。働いたり、働くための訓練を受ける意思を持たない若者のことをさし、定職につかず短期のアルバイトなどをして暮らすフリーターの若者より労働意欲に欠け、親にパラサイト(寄生)して生活しているケースが多く、現金が必要になると一、二日のごく短期のアルバイトをしてのんびりしている若者、俗にプータローともいいます。欧米人は、労働を神から科された罰とみています。罰で働かされてサボろうとする。いわば「労働

働かざる者食うべからざる(労働者)

懲罰説」の労働観をとっています。日本人にとっては、働くことは神に事(つか)えることであり、「労働神事説」とも言うべき神道の思想の影響を強く受けています。だから「働けるうちは働きたい」と考える者が多く、悠々自適の生活ができるのに、生活費は困っていないのに働きたいと願う人がいるのです。仏教では、お釈迦さまは、出家者は托鉢によって生きるべきだと、弟子たちが生産に従事することを禁じていました。しかし、のちに大乘仏教になると、仏教の担い手が在家信者になり勤勉が美德とされ、仏教も労働を重視し、江戸時代初期の禅僧鈴木正三が「農業即仏行なり」と主張しています。農業ばかりでなく、一何の事業も皆仏行なり。人々の所作の上にをひて、成仏したまふべし。仏行のほかなる作業有べからず」とも言っています。禅語に「一日作(な)さざれば、一日食(くら)わず」(百



文懐海禅師)という言葉もあります。「働かざる者食うべからず」という意味ではありません。働くのは自分の生活のためではなく、仏の願いのため、人々の幸せのため、傍を楽にするために見返りを求めずにつくすことを言っています。それができないから食べられないということです。労働に対するこうした考えかたを、現実にあわない。そんなことでは人に利用され、ひどい目にあうと冷笑する人が多いかもしれないが、働くということはどう考えるかで、私たちは豊かにも貧しくもなれるのです。日本人がもっていた労働観が音をたてて変わろうとする現代にあって、ニートの増加が警鐘を鳴らしているのではないかと危惧せざるにはおられません。

